

以下解析条件、判断基準概略

室内条件：温度 $T = 7.0 \cos\left(\frac{2\pi(\text{day} - 212)}{365}\right) + 20.0$ 、 相対湿度70%一定

ここでday：1月1日を起点とした延べ日数（日）

温度：7月31日に最大値27℃、最小値13℃を示すサインカーブ、湿度：70%RH一定

外気条件：拡張アメダス気象データ1995年版標準年、神奈川県海老名市、千葉県千葉市

計算開始日、解析間隔、期間：7月1日から1時間ごと3年

日射吸収率：0.9、方位：北面、

材料の初期条件：温度26℃、湿度80%RH

判断基準基準：最寒季（1～2月）における外装材表面を除く、全ての計算ポイントの容積基準含水率の期間平均値が0.15（m³/m³）以下（木質系の材料については質量含水率で0.28（kg/kg）以下）であること。

非定常計算における通気層の分類と換気回数の設定：

外壁	通気層厚さ9mm以上	通気層厚さ9mm以上 (通気経路上に障害物がある場合*)
屋根	—	通気層厚さ9mm以上
換気回数	30回/h	15回/h

*「通気経路上に障害物がある場合」とは、防火上の通気役物を意味する